

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800015		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	ファミリア下呂(グループホーム)(2ユニット)		
所在地	岐阜県下呂市森2273番地		
自己評価作成日	平成21年8月26日	評価結果市町村受理日	平成21年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2192800015&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の要介護状態の軽減もしくは、悪化の防止に資するよう、日常生活に必要な援助を妥当適切に行う。 価値ある一日・その人にあった場面や時間を大切にする。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の気持ちを引き出すように、近くに寄り添ったり、声をかけたり、話す場面を多く持つよう心掛けている。利用者の移動能力が変化する中、横になって休む時間を作ったり、歩行時のみまもりに配慮している。浴室には温泉がひかれており、機械浴は無いが、座位が取れない利用者も2人介助で温泉浴を楽しんでいる。シャワー浴であっても浴室内は温泉の熱気があり、暖かく、冬でもゆったり入れる。毎月行事の予定を立て、行事に合った人々を招き皆で楽しんでいる。地域との交流も徐々に進み、事業所に「地域のお祭りみこし」が来訪して、皆で楽しんでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(2ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各箇所に掲示し、一人一人が理念を 実践出来るよう図る	医療法人としての理念、ホームの方針やスローガンを記載したものを、玄関や職員の目に付くところに掲示している。また、今年度の施設スローガン(長期ビジョン)を年度初めに職員に説明し、資料の配布を行うと共に職員会議で繰り返し取り上げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事には、区長さんはじめ連絡をし、参加していただくよう進めている。 今後、地域の行事にも参加できるよう心掛ける	地区自治会に利用者と職員が個人単位で入会している。春と夏に行われる地域の祭りでは、みこしがホームの玄関前まで訪れてくれる。下呂花火大会に利用者が近くまで出かけるにあたり、地域から協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に施設を開放し、周知していた だけのようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の割合で実施し、地域の代表者やご家族や行政の方々との意見交換を図りながら実施している。	2ヶ月に1回、平日の午後、行政・地区長・民生委員・家族の代表・職員をメンバーとし、法人の他施設と合同で開催している。各施設の利用状況を報告し、介護保険制度の変更の説明等を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上の問題点や、新しい取組について連絡をとっている。	運営推進会議への出席を得たり、利用者がホームのサービスを利用する上での個別の課題について相談等を行っている。運営推進会議は単独での開催が良いと行政からの意見があり、次回より変更する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、職員会議において意識高揚に努めている。	ベッドからのずり落ち、不潔行為のある利用者へのケアが身体拘束にならないように職員間で繰り返し話し合い対応している。併設の小規模多機能型事業所と玄関を共用しているため、帰宅願望のある利用者の時間帯のみ鍵の使用が ある。	ドアに暗証番号入力式の鍵がついており、扉が開放してあっても鍵が目に入るため、直接鍵が視界に入らない工夫が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、職員会議において意識高揚に努めている。		

岐阜県 ファミリア下呂(グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度対応者を1名受け入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約時書類を読み上げ、十分に理解をしていただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当者を置く。 月1回は訪室し、利用者に話しかけている。些細なことでもミーティングにて報告する。ご家族には、随時連絡をとるようにし、お変わりが無ければ、広報誌にて、近況報告している。	居室担当者は1人で利用者3~4人を担当し、居室で利用者に話しかける時間を取っており、気持ちの把握に努めている。運営上必要なことであれば、会議等で検討している。家族からは訪問時に直接話したり、電話で意向を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティング、職員会議を提案の機会としている。 出来ることは、出来るだけ早く対応するようにしている。	管理者と職員は日常から意見を言いやすい関係ができており、率直に意見を交わしている。入浴日の人員配置や休憩時間の取り方等を職員会議で取り上げ、管理者はできるだけ早い対応に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規程の整備見直しにより、働きやすい環境、条件での勤務をしてもらう。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議や、ミーティングを活かし社内教育を行う。 社外研修も積極的に参加できるように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域柄十分な交流が行えていないのが現状である。地域ケア会議等に出席し情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、入所時に本人様と面接を設け本人様が不安にならないようお話をさせていただいている。 居室担当者を配置し本人様と関わりをみたりしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時にご家族の要望等を伺い要望に沿えるようサービスを行うよう努めております。 各担当スタッフが専門的分野で相談できるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者との会話を大切にし、サービス担当者会議を定期的に開催している。 以前のサービス担当者とも連携をとれるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗濯たみなど自分の出来る仕事を積極的に行ってくださる利用者もおります。 また、声を掛け合い共に支え合う関係があります。 スタッフは常に人格尊重の教育をコミュニケーション		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の要望に常に耳を傾け、よりよいサービスの提供出来るよう努めています。 サービス計画立案時にご家族の意見をまず一番に検討している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの方が来所された場合などは、お互いがゆっくり出来る時間と場所を提供するよう努めています。 施設側も仲介者として連絡をとったりしている	利用者に入居前の知人等の訪問がある際には、ゆっくりしてもらっている。また、ドライブの途中に入居前に暮らしていた自宅近くに寄るなど利用者の思いに寄り添えるよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者一人一人をよくみ、孤立しないよう参加を促すよう努めております。 担当スタッフとの関わりの中で意見を聞き出し、支援出来るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の一方的な思い込みや判断にならないよう配慮しながら実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフミーティング等で検討している。 計画作成者、担当スタッフが関わりをもちマネジメントを心掛けている	職員は、日に2回あるお茶の時間はもっとも気持ちが現れやすいと感じており、楽しいお茶の時間を過ごせるよう、利用者のテーブルの位置、身支度など細かく配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	計画作成者、看護師等で十分検討し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングで、現状を把握し情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月で介護計画を立て直し、おおむね3ヶ月でのし点でモニタリングをかける 様子を見ながら随時モニタリングをかける	居室担当者は、利用者とは十分時間をとって居室で話をしており、利用者の様子を把握しているため、介護計画担当者は居室担当者と共に計画を見直している。医療面では健康を把握している常勤看護師からも情報提供を受け、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を通し、実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、管理者、計画作成者、看護師、居室担当者がその課題にたいし、検討している。 外部機関や地域資源を利用することも前向きに取り組んでいる		

岐阜県 ファミリア下呂(グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関や地域事業者(商店等)とも協働している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前にかかりつけて見える医療機関とも相談しながら、本人様を支援している	法人医師をかかりつけ医とする利用者が多いが、入居前からのかかりつけ医に受診する利用者もある。家族が受診介助ができない場合の受診支援や緊急時対応をしている。日勤の常勤看護師が医師と連携をとり、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	業務前のミーティングにて情報の共有等をはかり迅速な対応をとれるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護職員がおもに医療機関との協働をしないトラブルが無いよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	関係者と打合せしながらできる支援を講ずるようにしている	重度化した場合、法人医師が作成した「利用者の様態急変時対応指示書」に基づき対応している。重度化の事例を経験し、早い段階からの話し合いがあっても希望の変化があるため、随時に対応する必要性も把握した。	さらには、本人、家族、法人医師、職員、かかりつけ医等との意思確認ができる記録の作成や実施の記録が残るような取り組みが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の指示書も活用し色々な場面に対応出来るよう教育もしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施 消防署職員より講話等もしている	利用者も参加した避難訓練を実施している。各階ごとに避難経路の確認を行った。訓練時に消防署から指導を受けたことについてはすぐ改善した。	運営推進会議等で、地区役員や民生委員に災害時における地域からの応援を依頼する取り組みが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには十分注意し、重要事項説明書にて説明し、同意書を取り交わしている。 人格尊重に対するスキルアップを朝礼等でも常に実施している	毎朝の業務ミーティングにおいて、利用者への言葉かけや対応における注意事項の確認を行い、全職員が実践できるよう取り組んでいる。	トイレが利用者・職員・訪問者と共用であり、カーテン扉の箇所もあるといった構造的な課題があるが、利用者間のプライバシーへの配慮ができる利用方法を検討されたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ全員が支援できるよう日ごろミーティングにおいて打合せてしている。 信頼関係をもてる担当スタッフも配置している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の発信を大切に気づいたことを実践出来るようミーティングにて話し合っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定や家族の希望があれば望む店に行けるよう支援している。 担当スタッフが見立てをしたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食を取り入れる事により、食事の楽しみを持っていただけるよう努めている 随時嗜好も調査している	調理専門の職員がおり、利用者に食べやすい食事が用意されている。利用者の身体能力の変化も見られ、食事はそれぞれの階で食べている。職員は利用者とはゆっくり話したり、利用者のペースに合わせて介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせペースト、刻み食などを用意している。 水分はとろみをつけるなどして摂取していた 食事、水分摂取量の記録もとっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後等の口腔ケアを援助また、促すよう努めています。		

岐阜県 ファミリア下呂(グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて分けし、その方のパターンを把握出来るよう努めている。 介助用品や自助具等の検討をし自立支援を心掛けている	排泄チェック表により把握した個別のリズムから判断し、個別にトイレ誘導、声かけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護・介護職員が検討をし、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉浴を楽しんでいただいている。 週の回数を設定せず好きな日にちに入ってもらっている	朝9～15時の時間帯に入浴している。併設の小規模多機能型事業所の利用者と温泉を共用している。機械浴は無いので、必要な利用者には2人で介助している。毎日の入浴を希望する利用者もあり、対応しているが、平均は週に2・3回の入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室の提供や休憩場所の提供も行っている。 精神安定のための空間作りにも取り組んでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師がドクターと情報交換をしながら服薬の検討を積極的に行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリ・レクリエーション活動を取り入れ支援している。 嗜好品等も制限せず自由にしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添えるよう支援している。 四季を楽しめるようドライブを企画したりする。	座ることができる利用者であれば、月に2・3回のドライブに出かけている。車で10～15分の買い物やそれより少し時間のかかる地域への花見にも季節ごとに出かけている。昨年、利用者・家族と共に1泊旅行を行った。	車椅子の利用者への配慮や職員の手配等、どの利用者にも公平に行えるよう車での外出が多いが、日常においても、日光浴、外気浴等で事業所内に留まらない支援が期待される。

岐阜県 ファミリア下呂(グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族にご理解をいただける方にはお金の所持は自由に行っている。 ただし、施設側は金銭管理はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙はご本人に必ず取り次いでいます。 また、電話の利用に関しては特別な制限はしておりません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃し清潔にしています。	建物内は広く、採光も良く、清潔である。居室・廊下等事業所内の各場所は、日勤の職員により清掃されている。各階にテレビやソファ、テーブルがあり、くつろげる場所も確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いろんな空間、場面の提供をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様や、ご家族の自由に行っている。	家庭で使っていた品や馴染みのものを持ち込んでもらうよう家族にも依頼し、搬入されたものは、ベッド周囲に配置している。車椅子の利用者も多く、部屋の入り口は段差を解消している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子が自走出来るよう、バリアフリーになっており、廊下には手すりがあり、障害物は撤去してあります。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	○理念の共有と実践 職員にわかりやすく、インパクトのあるものに	各職員が理念を覚え頭のすみに入れておく	ファミリア下呂独自の理念を検討する。パンフレットにも記載されている「地域に根ざす、優しさ・安らぎ・信頼」を独自の理念とする	2 か月
2	6	○身体拘束をしないケアの実践 ドアのロックについて検討	日中ドアロックの解除 身体拘束をしない努力	日中はドアロックを解除する取り組み夜間は防犯上施錠をする。 みんなで議論し共通の意識を持ち拘束を必要としない状態の実現を目指し事故の起きない環境を整備し柔軟な応援態勢を確保し、拘束をするケースは極めて限定的にする	6 か月
3	10	○運営に関する利用者、家族等の意見の反映 家族に意見を聞き出せるようにする。 家族にも協力者になっていただく	家族の来訪時などの会話を記録に残す 家族の意見・要望の聞き取りをする	介護日誌や個人記録に記入する 推進会議等に出席いただき意見・要望を伺う 広報誌等により要望への取り組みを報告する	6 か月
4	40	○食事を楽しむことの出来る支援 職員と利用者が一緒に食事を摂ることが出来ないか。 一緒に出来る事はないか。	週1回は利用者と一緒に食事をする	毎週水曜日は手作りメニューを1品考え利用者と共に作り一緒に食事をする。	4 か月
5	49	○日常的な外出支援 外出出来るよう支援 ご家族からのアンケートに一番多い	生活の中で戸外へ出られるよう検討し、散歩やドライブなどに出かけられるようにする。	洗濯干し、菜園作りを通し戸外へ出られるようにする。 散歩・ドライブに出かけられるようにする。	6 か月

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。